イベント関連情報

申問文化スポーツ課（春日文化ホール内）☎74 - 1050 Ⓕ74 - 2855
一般社団法人ネクストゼロ（ライフピアいちじま内）☎85 - 3032 Ⓕ85 - 3038

第９回丹波市文化協会総合文化祭

展示部門
■とき / ７月６日（土）～７日（日）午前９時～午後４時※６日は正午から
■ところ / ライフピアいちじまロビー
舞台部門
■とき / ７月７日（日）午前 10 時～午後４時
■ところ / ライフピアいちじま大ホール
お茶席
■とき / ７月７日（日）午前 11 時～午後３時
■ところ / ライフピアいちじまロビー
■参加料 / １席 500 円

みんなのピアノフェスタ 2024 出演者募集

■とき /11 月 10 日（日）
第１部：午前 10 時開演
第２部：午後１時 30 分開演
■ところ / ライフピアいちじま大ホール
■募集数 /70 枠※第１部 30 枠、第２部 40 枠
■申込方法 / 申込書を一般社団法人ネクストゼロまで FAX、郵送または直接持参ください。
■応募締切 / ６月９日（日）午後５時まで
※募集数を大幅に超えた場合は公開抽選会を開催し、出演者には出演決定通知を発送します。
■参加料 / 市内在住者１枠１人 3,000 円、市外在住者１枠１人 5,000 円

バンドフェスタ 26th

■とき / ７月 14 日（日）
第１部：午前 10 時 30 分開演
第２部：午後１時 30 分開演
■ところ / ライフピアいちじま大ホール
■定員 /500 人※先着
■出演 / 市内や近隣自治体で活動するバンド約 15 組

ポスターデザイン画を募集

■募集内容 / 市および一般社団法人ネクストゼロ主催の各フェスタで使用するポスターおよびチラシの背景イラストやデザイン画
■応募資格 / 中学生以上
※市内・市外・プロ・アマチュアを問いません。
■募集部門 / ダンスフェスタ、ピアノフェスタ、和太鼓フェスタ
■応募点数 / 各部門につき１人１点まで
■応募作品 / ①Ａ４サイズ（210 ㎜× 297 ㎜）②手書きまたはコンピュータソフトなどで制作された原画またはデータを提出③未発表のオリジナル作品で、各フェスタをイメージできる作品
■応募方法 / 応募用紙と作品を一般社団法人ネクストゼロ窓口へ直接持参またはメールで提出
■応募締切 / ダンス部門８月 18 日（日）午後５時、ピアノフェスタ部門８月 28 日（水）午後５時、和太鼓フェスタ部門９月 22 日（日）午後５時

つかさグループいちじま球場の HP
ネーミングライツ契約を更新

問文化スポーツ課（春日文化ホール内）☎88 - 5057

平成 31 年から「つかさグループいちじま球場」の愛称で親しまれてきたスポーツピアいちじま野球場の、ネーミングライツ契約を更新しました。

■愛称名 / つかさグループいちじま球場
■ネーミングライツパートナー
企業名：司観光株式会社
代表者：代表取締役社長　井上宏章（ひろあき）
所在地：京都府舞鶴市字上福井小字宮ヶ谷 1611 番地
■ネーミングライツ料 / 年額 110 万円（総額 550 万円）※消費税は除く
■契約期間 / 令和６年４月１日～令和 11 年３月 31 日まで（５年間）

毎年夏には全国高等学校女子硬式野球選手権大会の熱戦が繰り広げられるつかさグループいちじま球場

まちかど とぴっくす

柏原高等学校で生徒の学びを支援
地域おこし協力隊に寺戸さん

市長から委嘱書を手渡された寺戸英二さん（写真右）

柏原高等学校のさらなる魅力アップに向け、4月11日、地域おこし協力隊として寺戸英二さんが着任しました。高校魅力化コーディネーターとして、生徒の探究的な学びの伴走支援や多様な人材との交流を通じたキャリア教育の支援などの活動を行います。

寺戸隊員は、「大学時代には家庭教師を経験し、教育やキャリアデザインに興味があった。勉強だけでなく、社会を学ぶ実践の場づくりに力を尽くしたい」と抱負を述べました。

水分れフィールドミュージアム
来館者10万人を突破！

10万人目となった橋本快くんと家族（写真中央）

令和3年3月にリニューアルオープンした水分れフィールドミュージアムの来館者が、4月27日に10万人を突破しました。

10万人目となった氷上町石生から訪れた橋本快くん（9歳）は、「小さいころからよく遊びに来ている場所です。10万人目になれてうれしい。これからもまた遊びに来たいです」と、片山教育長とちーたんからのプレゼントを手にうれしそうに話しました。

紫のシャワーが観光客ら約3万人を魅了
白毫寺九尺ふじまつり

4月24日から5月6日まで、市島地域の白毫寺で「白毫寺九尺ふじまつり」が開催されました。見頃がゴールデンウィークと重なり、公開を心待ちにしていた約3万人の観光客が県内外から訪れ、全長約120メートルにもおよぶ藤棚の下を散策しながら写真を撮影するなど、幻想的な風景を楽しんでいました。

訪れた人は、「藤棚の下を歩くと、紫のシャワーを浴びているような気分で気持ちいい」と話していました。

藤棚の下を散策する見学者ら

能登半島地震被災地から帰任
被災地での支援業務などを報告

能登半島地震の被災地支援のため、要請に応じて様々な部署から職員を派遣しています。石川県珠洲市に4月12日から19日まで派遣されていた職員2人が帰任し、4月25日、従事した義援金申請業務や被災地の状況などについて林市長に報告しました。

宮野さおり副所長は、「現地は家や電信柱が倒壊したままで、仮設住宅の建設もこれからといった状態。義援金の申請者も多く、長期的な職員の支援が必要であると感じた」と話しました。

市長報告をする宮野さおり副所長（写真左）と山崎陽子主幹